2025年　夏号

SUPPORT　NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人　地域福祉サポートちた

もくじ

□ 2025年度通常総会のご報告・退任理事ご挨拶 …… 1P
□ NPOと行政との意見交換会開催 …… 2P
□ 新城版「介拓奨学生プログラム」スタート …… 3P
□ 強度行動障害 講師紹介 …… 3P
□ インフォメーション …… 4P

2025年度通常総会のご報告・退任理事ご挨拶

■2025年度サポートちた通常総会のご報告

５月28日、知多市市民活動センターにて、出席者数36うち表決委任者数22（2025年３月末時点）の皆様のご協力の下、通常総会を開催いたしました。議案である2024年度事業報告及び決算案、役員の選任が行われ、全ての承認がなされました。皆様への感謝とともにご報告申し上げます。また、選任された13名の理事による互選会にて、昨年度に引き続き、代表は市野恵、副代表は山﨑紀恵子（認定NPO法人絆代表理事）、常務は、安藤千栄子（事務局長）、山森英津子（事務局次長）が就任しました。今年度もよろしくお願い申し上げます。

さて、当法人は「役員の任期は１年」と定めております。これは、社会の変化や私たちの暮らしの変化に対応できる体制づくりのためであり、５市５町広域の中間支援組織ゆえの判断だと受け止めております。当然、毎年の総会で役員全員の改選を行い、登記申請も毎年ですので、事務は煩雑ですが、チェック項目として欠かせません。見方を変えて言うならば「絶対忘れない」という効果があります。

前置きが長くなりましたが、理事の今井友乃さんが役員任期満了にて退任されました。2001年に入職した彼女は、法人格取得後の間もない頃の会計や労務などのバックオフィス業務等を整えられました。また、多くの関係者を巻き込みつつ、信頼を得ながら次々と事業開発される姿は、地域の変革者であり、市民プロデューサーであり、私たちのロールモデルです。その功績の感謝とともに、これからもますますのご健勝とご活躍を祈念しております。

個人的には子育て期からの付き合いもあって、転入後も「暇やろ。おいで」とサポートちたに迎え入れてくれたのも今井さんでした。腐れ縁だと思って、これからもよろしくお願いします。市野恵

■退任理事のあいさつ

「サポートちた　理事退任に際して思うこと」

この度、サポートちたの理事を卒業させていただくことになりました。今の組織に移ってからなので、15年以上は理事をさせていただきました。「サポートちた」から「知多地域成年後見センター」にところてんのように移動になり、現在があります。

思い起こせば、私は、人生で初めて働いたのが、「サポートちた」での、パートでした。先進国である日本の福祉がこんなに陳腐なのかと、驚いたのを記憶しています。40歳前にして初めて社会にでて、世間を知ったのが、「サポートちた」であったのです。

ここからは、ジェットコースターのような人生を過ごしてきたかと思っています。今は、「知多地域権利擁護支援センター」の理事長になってしまい、「サポートちた」とは、違う仕事についているように見えますが、何だか同じようなことをしているようです。

地域で誰もが、どのような状態になっても自分らしく暮らしていけることが、人間の幸せではないかと、考えています。この考えを持てるようにしてくれたのは、「サポートちた」での経験です。今もそのことを願い続けて活動を続けています。理事は退任しますが、私も活動の根幹を作ってくれた「サポートちた」が誰もが頼りにできる団体であり続けることを願っています。

NPO法人知多地域権利擁護支援センター
理事長　今井 友乃

■「NPOと行政との意見交換会」開催

5月28日、日本福祉大学 菊池遼さんを講師にお招きし、「新たなまちづくりの扉を考える」を意見交換会のテーマにお話しを頂いた。講義の内容を紹介する。

菊池遼先生

知多地域ではかつて、助け合いの精神で、周囲の困っている人たちを支える取り組みがNPOへと発展していった。一方、福祉制度が導入されてから支援の仕組みは複雑化し、本来の助け合いの精神が見えづらくなった。福祉系NPOは「理想的なケア」を追求しながらも、組織経営との板挟みとなり、「しんどさ」につながっている。

全国の福祉系NPOは、制度事業に追われる中で地域活動を展開する余力がなく、介護報酬の切り下げや人材確保の難しさによって、持続可能性の課題に直面している。一部では事業撤退を余儀なくされる団体も増えており、八方ふさがりの状況が続いている。介護保険制度の枠組み内で雇用を確保しようとすると、助け合いの活動はどんどん難しくなる。本当は助け合いの活動をしたいのに、できないという構造的矛盾こそが「しんどさ」の正体かもしれない。

知多半島モデルとは何だったのか。厚生労働省は「縦割り」に「横ぐし」を通す必要があるとするが、そもそも地域は縦割りではなく、多様な人々が共生する「ごちゃまぜ」の状態である。高齢者福祉や障害者福祉といった枠組みで物事を捉えるから、制度の隙間や狭間が生じるのである。その隙間を埋めようとして、現在制度はつぎはぎのような形になっているのである。

約20年前、知多半島では、NPOが緩やかなネットワークを形成し、多様なサービスを提供しながら地域の助け合いを支えていた。知多半島北部のベッドタウン化の影響で移り住んできた女性、専業主婦の力が大きく、子育ての困りごとや介護の必要性から活動を始めることが多かった。この女性たちの「自己実現」がNPOを支える大きな力となり、地域福祉活動の源泉となっていた。

当時、法人経営を経験し、現在は引退されているNPOのリーダー3人にインタビューを行った。かつてのNPO代表者が引退後も楽しく市民活動をしている理由として「代表職から解放されたこと」だと仮説を立てた。しかし実際には、創業世代のリーダーは組織経営の制約があっても「ずっと自由だった」と語る。「地域の中のおもしろいこと」「助けが必要な人を支えること」など、資源開発自体を楽しんでいたようだ。 しかし、現在のNPO活動は、（助成金などの関係から）「計画通りの運営」が重視され、自由な発想や行動が制限されているのではないか。

また、以前は知多半島のNPOはそれぞれの地域で、コーディネーターの機能を果たし、周囲の人々を巻き込みながら地域に根ざした活動を展開してきた。NPOのリーダーは移り住んできた「よそ者」だからこそ、地域のしがらみを持たず自由に活動できた側面もあった。必要だと思うことがあれば直感的に動き、制度が後追いになっていたのである。しかし、ボランティア活動からNPO法人へ移行する過程で、ビジネスライク化や市場経済的な視点にとらわれ、スタッフのマネジメントなども課題となった。さらに、社会的に専業主婦層が減り、共働き世代の増加、60歳以上の就労人口の増加により、地域福祉の担い手の形が変化している。

経済学者カール・ポランニーが言うように、この社会はそもそも「贈り物の循環」で成り立ってきた。しかし、現代は市場経済が発展することで、人々と地域との結びつきが薄れている。かつては農作業などで助け合わなければ生活が成り立たなかったが、現在では、日常的な関わりを持たなくても生きていける社会なのである。さらに、現在の若い世代は働き方が多様化し、かつてはケア労働を担っていた女性を中心に、「福祉の現場を選ばない時代」になってしまったように感じる。

かつては子どもたちに地域の中で役割があり、地域社会の一員としての感覚を持つことができた。しかし、子どもは施しや支援の対象となってしまい、現在ではその感覚を持つことが難しくなっている。コミュニティへの帰属意識はどこで芽生えるのか。そのため、ボランティア活動などの機会を（わざわざ）つくり、「誰かのために何かをする経験」を広げることで、社会の役に立っている自己を覚知する営みが必要かもしれない。このように、社会の条件が変わっているのだから、かつての成功モデルをそのまま復活させるのではなく、今の社会状況に適応した新たな互酬性の仕組みを模索しなければならない。

福祉とまちづくり、経済活動を組み合わせたシステムを構築することで、人々のつながりを強化し、持続可能な社会モデルを実現できるのではないか。市場の失敗を活かした新規事業の創出や、制度外の新たな試みにより、NPOの可能性を広げることが鍵となる。自治会や町内会の加入率が低下する中、ひとつの手法としてコミュニティ財団などの仕組みを活用し、資金や人的資源を相互に補い合う新たな互酬性の構築が求められる。また、ボランティア活動の活性化には、新規の参加者を定期的に迎え入れる仕組みを整える必要がある。

これらの要素を組み合わせることで、現代に適した新しい互酬性の形を社会に浸透させ、福祉と地域づく

りのシステムを再構築する必要がある。

講義後、意見交換会の参加者からは、「世代の移り代わりによる課題を再確認した」「NPO目線の課題、行政目線の課題を共有することができた」との声があった。（安藤）

■新城版介拓奨学生プログラムがスタート

黄柳野高校での講座の様子

昨年度のNPOと行政との意見交換会で（社福）新城福祉会の長坂宏理事長より福祉従事者を支える条例策定のお話を頂いた。そのご縁から、長坂理事長は（社福）むそうが共催する、多分野の専門職が地域課題解決のために学び・交流する「ふわりんクルージョン:2024」へ登壇し、人材育成をテーマとしたシンポジウムの中で介拓奨学生プログラムと出会った。同プログラムが「福祉従業者がやりがいを持って働き続けることができるまちづくり条例：新城市(2021年施行)」に合致する取り組みとして、今年度より、新城版のプログラムがスタートした。

5月7日、新城市にある黄柳野高等学校の学生22名が、介護職の魅力や楽しさを体感するための入門講座である「介拓ルーキーライセンス講座」を受講。2日間、介護の基礎を学んだ後、（社福）新城福祉会と（社福）鳳寿会が運営する市内6事業所での体験実習を通じて、利用者や施設職員との対話や関りの中から学びを深めた。9月からは、介護職員初任者研修を開講し、資格取得を目指す。（山森）

介拓奨学生プログラム
～高校生のための初任者研修受講生募集～

〈日程〉7月5日キックオフ、22日より研修開始
※夏休み期間で15日程度
〈場所〉愛知県内の介護福祉事業所等
〈費用〉受講料、交通費無料
〈参加資格〉高校生(学年不問)
〈申込・問合〉介拓奨学生プログラム推進協議会
詳細は介拓HPよりご参照ください。
介拓HP：https://kaitaku.org/

介拓奨学生
プログラムHP

強度行動障害支援者養成研修 講師紹介

当法人主催「強度行動障害支援者養成研修」では、支援現場の実践者を講師として招聘しています。そんな講師陣の横顔をリレー形式でご紹介します。今回は、社会福祉法人大府福祉会たくと大府施設長の林大輔さんです 。（山森）

【団体の概要、仕事内容は？】

たくと大府は、この研修のテーマでもある「強度行動障害」のある方を専門的に支援する施設です。僕は施設長として運営を管理しながら、日々支援現場で職員の人材育成や指導をしています。

【現場支援で大切にしていることは？】

学んだことを実践にいかに結びつけるかを大事にしています。OJTという言葉があるように、学んだことはすぐ実践することが大切です。氷山モデルを使った支援方法の検討は毎日ミーティングで検討します。チーム支援のために、全員で考え、組織的に支援方法を決定することで、統一された支援が守られると考えています。

【受講生に持ち帰ってもらいたいことは？】

とても中身の濃い研修で、分厚いテキストや資料でお腹いっぱいになるかと思いまが、学ぶべきことはそこにすべて詰まっています。無限にあるわけではありません。これを学んで実践できれば必ず成果がでますので、ぜひそれを信じて支援を続けてください。

【団体からのお知らせやメッセージ】

強度行動障害支援を専門的に実施しているたくと大府にぜひ見学にいらしてください。研修の学びに加え、実際の支援の様子や意見交換からも学ぶことができます。たくと大府では、自立課題という療育活動を軸に日々活動しています。その自立課題を幼児向けに改良した「知育課題」を販売しています。売り上げはたくと大府の利用者の工賃として全額支払われます。是非ご活用ください。

たくと大府HP

サポちた　インフォメーション

会員のみなさまから集まる情報を掲載しています。お気軽に情報をお寄せください。

■だいこん祭り ボランティアさん大募集!!

「だいこん祭り」は、地域の方々との交流を通して、住みやすい地域づくりを目的として開催します。当日ご協力いただけるボランティアさんを募集します。

〈日時〉8月24日(日) 8時～15時（祭りは11時～14時頃）
〈場所〉だいこんの花 旭南（知多市旭南1丁目22番地1）
〈内容〉①会場設営 ②来場者案内（受付、チケット 販売、駐車場等）③ブース手伝い ④会場片付け 他
〈対象〉どなたでも（中学生以上）　〈申込期限〉7月中旬
〈申込・問合〉NPO法人だいこんの花（担当：荒木・大宮司）
TEL(0569)47-8080　npo.daikonnohana@gmail.com

■知ってみよう！職場体験

知多市若者支援センターでは若者就労体験事業として、様々な職種の事業所にご協力いただき、職場体験を実施しています。多くの皆さんに就労のきっかけづくりとなるよう、この事業の仕組みや流れをご説明し、実際の職場体験の様子を体験談などを交えてご紹介します。

〈日時〉7月18日(金) 13時半～15時
〈場所〉知多市福祉活動センター　大会議室
〈対象〉関心のある方ならどなたでも
保護者･支援者の方もOK（定員30人）
〈申込期間〉7月1日(火)～17日(木)
〈申込・問合〉(一社)サポートネットゆっか　（担当：梶間）
TEL(0562)85-7236　yucca@ma.medias.ne.jp
※右上の2次元コードからも申込できます。

■「ふわりんクルージョン2025」開催

〈日程〉 10月4日（金）～10月5日（土）
〈場所〉 天王洲アイル
〈内容〉 医療･福祉･民間･行政など多分野の専門職が一堂に会し、地域課題について学び、連携を深める交流イベントです。※チケット購入・詳細は、下記URLまたは右上コードより参照ください。
〈申込・問合〉 NPO法人ふわり　ふわりんくる～じょん担当
TEL(0569)89-6237　fuwari@musou.or.jp
https://fuwarin-inclusion2025.peatix.com/

■きょうだい児「ゆいドリーム」参加者募集

病気や障がいのある兄弟姉妹を持つ子ども“きょうだい児”のための、遊びや体験を楽しむ会です。お菓子作りなどをしながら、皆でつくりあげていく、ほっとできる居場所を提供しています。

〈日時〉毎月第1土曜日 10時～12時
(7月5日、8月2日、9月6日以降も毎月あり)
〈場所〉認定NPO法人ゆいの会　ゆいホール
（知多市新知字西屋敷22番地2）
〈参加費〉子ども 100円
〈申込・問合〉ゆいドリーム　（担当：渡邉）
TEL(090)5336-8776
ボランティア（謝礼あり）も随時募集しています。
詳細はお問合せください。

■労働者協同組合の設立支援アドバイザーや研修会の講師を派遣します！

「労働協同組合」とは、労働者が組合員として出資し、その意見を反映して、自ら従事することを基本原理とする組織であり、2022年10月1日に施工された「労働者協同組合法」に基づく新しい法人制度です。

〈対象〉 労働者協同組合の設立･移行を検討している県内の団体および、協同組合法や協同労働について理解を深めたい県内団体、市町村
〈内容〉 ①アドバイザー派遣：定款や事業計画の策定、就業規則等の整備など、組合設立の検討段階から設立に至るまで、申込団体のニーズに応じたアドバイス、情報提供を行います。②講師派遣：研修会での制度説明や、協同労働実践団体の取組事例紹介など、申込団体の希望に合った講義を行います。
〈申込・問合〉 労働者協同組合ワーカーズコープ･センター事業団東海事業本部　（担当：今井・小林 ）
TEL（052）222-3850
tokaikh@roukyou,gr.jp
※詳細は、左コードより、愛知県「労働者協同組合」のHPをご参照ください。

〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
Tel 0562-33-1631　Fax 0562-33-1743
Email　spchita@ams.odn.ne.jp
HP https://sunnyday-cfsc.ssl-lolipop.jp/
特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた

手づくりカフェ Ada-coda シェフ募集

日替わりで市民が自分の思い通りのランチをつくり、お客さんに提供します。食品衛生責任者が常駐するので、初めての人でも安心して料理に専念することができる仕組みです。詳細はサポートちたまでお問い合わせください。　担当/落水